星図いろいろ展示中

今年は、1922年の国際天文学連合(IAU)総会で現行88星座が定義されて100周年です。これにちなみ、展示場4階の展示「江戸時代の天文学」では、日本で使われたいろいろな星図を展示しています。公開は5月29日(日)までの予定です。

古い時代のものでは、江戸時代の星図があります。日本では、古代から江戸時代の終わりまでは、中国の星座体系を使っていました。今回は、渋川春海の『天文分野之図』(1677年、写真1)や、中国の游子六の著書に訓点を施した『天経或問』和刻本(1730年)といった、中国星座を描いた星図をご覧いただけます。また、入江脩敬の『天経或問註解』(1750年刊)に掲載された星図では、渋川春海が17世紀の終わりに、中国星座のすき間に追加した61個のオリジナル星座をご覧いただけます。

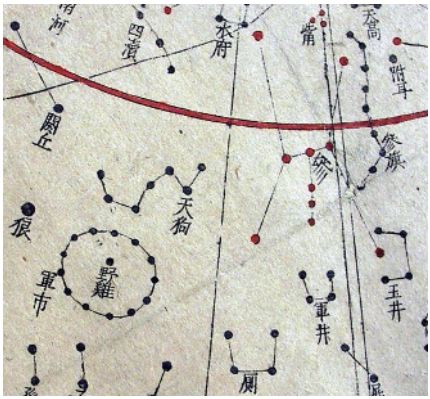

写真1:『天文分野之図』の参宿(今のオリオン座)付近

明治時代以降の星図も展示しています。明治になると、日本は西洋天文学を本格的に導入し、西洋星座も使われるようになりました。今回は、日本で初めて刊行された星座早見盤をご紹介しています。日本天文学会の編集によるもので、初版は1907年発行です。今回の展示品は1941年の第67刷ですが、初版と同じデザインを保っています(写真2)。

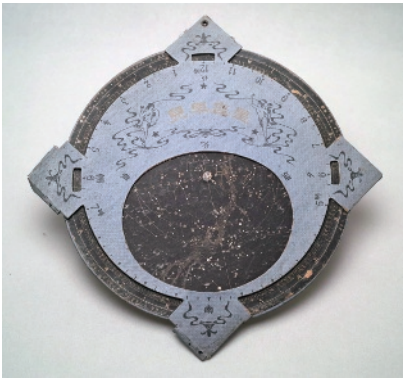

写真2:日本天文学会編集の星座早見

同じ星空を見上げても、つなぎ方が変わると見え方も変わります。小さな展示ですが、新旧の星座の姿をお楽しみいただければと思います。

嘉数 次人(科学館学芸員)

学芸員の展示場ガイド

「学芸員の展示場ガイド」では、サイエンスガイドの方といろんな展示を動画で紹介しています。ホームページからアクセスできますので、ぜひご覧ください!

うちゅう Vol.39,No.2(通巻458号) 2022年5月10日発行
発行所 大阪市立科学館 〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-1 電話 06-6444-5656
印刷所 東洋紙業高速印刷株式会社 大阪市浪速区芦原2-5-56